



## 令和3年度～5年度の取組実績

### 【事業計画】 ～社会実装＋感染症対策に資する先進的介護の発展～

- ◆先進的介護「北九州モデル」の普及
- ◆ニーズに沿ったロボット技術の開発・改良
- ◆感染症対策に資する新たな「先進的介護」の取組

#### 1 先進的介護「北九州モデル」の普及に向けた取組

##### (1) 導入・実践をサポートする拠点

###### 「北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センター」の開設

令和3年4月、北九州モデルの普及を効果的に行うため、介護施設に対する導入支援拠点として開設（総合保健福祉センター北九州市立介護実習・普及センター内）

###### 【実施状況】

- ・相談件数：累計683件（ニーズ相談件 386、シーズ相談 297件）

##### (2) 市内介護施設への北九州モデルの導入支援

導入支援・普及促進センターが中心となり、市内特別養護老人ホームに対して、「北九州モデル」の導入支援を実施、業務改善に取り組んでいる。  
また、令和4年度から対象施設に老人保健施設を加え、支援を拡大。

###### 【導入支援状況】

- ・令和3年度：特別養護老人ホーム5施設
- ・令和4年度：特別養護老人ホーム4施設、老人保健施設1施設
- ・令和5年度：特別養護老人ホーム4施設、老人保健施設1施設

##### (3) 専門人材の育成

介護ロボット等を効果的に活用できる専門人材の育成を目的として、平成29年度から「介護ロボットマスター育成講習」を開催。

令和4年度からは入門編、実践編、管理編に講習を再構築。中核となる実践編は、従来年1回の開催を、4つの対象機器分野での開催へと拡充するとともに、メーカーによる実機体験も実施して内容の充実を図っている。

###### 【実施状況】

- ・令和5年度は入門編・実践編・管理編の3コースを開催、395名が受講。  
(平成29年度からの総受講者数はのべ1,083名)

#### (4) 「北九州モデル導入・実践ガイドライン」の作成

- 令和4年3月、北九州モデルの導入を促進するため、「北九州モデル導入・実践ガイドライン」を作成し、入所系の市内介護施設へ配布
- ガイドライン配布に合わせて概要動画を作成、広報・周知を図った。

### 2 ニーズに沿ったロボット技術の開発・改良の取組

#### (1) 「北九州市介護ロボット等普及開発ネットワーク」の設立

介護ロボット等の導入支援の強化や、介護現場ニーズに沿った機器の開発・改良を狙って、開発メーカーや関連団体などからなる「北九州市介護ロボット等普及開発ネットワーク」を設立。

会員数：48団体（うち、市内14団体） ※令和5年12月末時点

#### (2) 北九州産業学術推進機構（FAIS）と連携した研究開発の推進

- 平成28年度から、FAISの「研究開発プロジェクト支援事業」と連携し、介護分野の製品開発や技術開発を支援
- 令和5年度は、徘徊足止め技術やセンサ装着杖など3件の技術開発を支援

### 3 感染症対策に資する新たな「先進的介護」の取組

#### (1) 感染症リスク低減のための換気方法の研究

感染症対策に資する新たな取組として、コロナ禍における施設の室内環境下での持続可能で効果的な換気方法について、産業医科大学と連携し研究を実施。

研究成果は市ホームページで公開するとともに、わかり易くリーフレットにまとめ、市内施設へ情報提供。

##### 【実施状況】

- ・市内の特別養護老人ホーム6事業所で実証
- ・リーフレット「介護事業所向け効果的な換気方法に関する6つのポイント」を作成

### 4 広報・PR

先進的介護の実現に向けた本市の取組を広く全国に情報発信することで、介護事業者やロボット開発メーカー、厚生労働省をはじめとした国の関係機関・団体等との連携強化を図っている。

市ホームページでの情報公開、業界誌などへの寄稿、出前講演や視察の受入れ、Webセミナーへの登壇やTV番組への出演など、積極的に情報発信に取り組んだ結果、令和3、4年度とも視察や取材件数が増加した。

##### 【視察・取材実績の推移】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (12月末時点)
視察件数	22件	6件	11件	16件	13件
取材件数	10件	2件	13件	14件	6件

計68件  
計45件

※視察人数(R1～R5) 計429人

## 5 成果指標と達成状況

### (1) 行政評価指標 (KPI)

本事業の成果は、下記指標を行政評価項目として位置づけている。

令和5年度までの目標は達成しており、着実に中期目標に近づいている。

#### 【令和5年度までの累積実績】

- ・北九州モデル導入を含む職場改善件数 (見込み) 15件 (令和5年度までに15件)
- ・介護ロボットの導入施設数 (見込み) 140件 (令和5年度までに77⇒120件)

### (2) 介護ロボット導入状況調査

当事業の進捗を把握するため、市内の介護施設・事業所における「介護ロボットの導入状況等に関するアンケート調査」を毎年度実施。

#### 【令和5年度アンケート調査】

- ・特別養護老人ホームでの普及率が65.1%に拡大 (前年度61.0%)
- ・今後の導入を考えている機器上位は、見守り、介護業務支援、移乗介助

## 6 当初計画以外の取組

### (1) 予測型介護の研究

- ・令和3年～4年、産業医科大学、九州工業大学と協力して、

(ア) 各種文献調査

(イ) 特別養護老人ホーム職員 (看護・介護) への面談調査

(ウ) 介護記録の分析

に取り組んだ。

- ・令和5年度は、福岡女学院看護大学と協力して、特別養護老人ホーム職員 (看護・介護) への面談調査を実施し、施設職員が、入居者の看取りにつながる体調変化が生じていると判断したサインを察したときに、入居者に対して提供しているケア内容について明らかにする。

### (2) 特区特例措置の効果検証のための実証 (全国展開に向けた実証)

- ・令和5年9月～10月、「特別養護老人ホーム第二わかば」にて実証を実施
- ・介護ロボットの導入及び特例措置を活用して共同生活室の可動壁利用する条件下において、入居者のADL・QOLは維持された状態で、生産性を向上することができ、職員を含め悪い影響は無いとの結果を得た。
- ・12月上旬に実証報告書を厚生労働省に提出し、調整の結果、1月上旬に内容確認がとれたところ。
- ・今後は、内閣府・厚生労働省・本市の三者にて全国展開に向けた協議を進めていく。

### (3) 介護助手の活用を推進するための仕組みづくり

- ・介護人材不足緩和のため、介護現場で非専門職を担う介護助手について、業務標準化や地域での採用環境を調整し、持続可能な人材確保の仕組みづくりに取り組む。
- ・令和5年10月～11月、働き方および介護助手に関するアンケート（市内特養・老健 計117施設/働き手約2,000人）を実施。回答のあった介護施設4施設に訪問しヒアリングを実施した。

# 令和6年度以降の計画（案）

## 1 基本的な考え方

令和6年度からスタートする新たな「北九州市基本構想・基本計画」では、目指す都市像として、『つながりと情熱と技術で、「一歩先の価値観」を実現するグローバル挑戦都市・北九州市』を掲げている。

さらに、目指す都市像の実現に向けて3つの重点戦略を定めており、その一つである「稼げるまち」の実現に向けた施策「アジアの社会課題解決への貢献と国際ビジネスの推進」の中で、先進的介護の取組が位置付けられている。

そのため、新ビジョンの実現（目標年次2040年）に向けて、3つの施策の方向性を定め、具体的な施策・事業を実施していく。

## 2 3つの施策の方向性

- (1) 「北九州モデル」の深化・拡充
- (2) 「北九州モデル」の認知度向上
- (3) 「北九州モデル」の海外展開

## 3 主な取り組み

### (1) 「北九州モデル」の深化・拡充

- 市内の介護施設への「北九州モデル」の導入促進
- 予測型介護や介護助手活用の仕組みづくり
- 在宅版「北九州モデル」の構築 等

### (2) 「北九州モデル」の認知度向上

- 国内外からの視察受け入れ施設の増加
- 先進的介護モデル施設の整備と拠点機能の確立 等

### (3) 「北九州モデル」の海外展開

- 国内外からの研修生・実習生の受け入れの仕組み構築
- 先端テクノロジーと介護手法のパッケージ化 等

## 1 在宅版「北九州モデル」の構築

本市は、高齢者独居や老々世帯が多く、在宅介護体制の整備が求められている。しかしながら、在宅介護事業者の人材不足は深刻であるのに加えて、在宅事業者の多くは事業規模が小さく、独自の改善策を考えるには限界がある。

については、これまで培ってきた先進的介護「北九州モデル」のノウハウを基に、テクノロジー活用と業務改善をパッケージした在宅版「北九州モデル」を構築し、高齢者やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせる環境の整備を目指す。

在宅版「北九州モデル」の構築は、R6年度からR8年度の3カ年で行う計画としている。R6年度は、在宅介護事業者や在宅高齢者の実態調査を実施し、在宅事業者・介護人材・在宅高齢者や家族にとって、ケアの質や生産性の向上につながる共通課題を探るとともに、課題解決に向けた施策検討を行う。

その後、R7年度に課題解決につながるモデル実証、R8年度に実証結果を踏まえたモデルの確立と普及策の策定、R9年度から本格的な普及展開を実施する予定。

- 【今後の予定】
- ・ R6年度：実態調査と課題解決策の検討
  - ・ R7年度：モデル実証
  - ・ R8年度：モデルの確立と普及策の策定
  - ・ R9年度：本格的な普及展開

## 2 先進的介護モデル施設の整備に関する公募

「介護ロボット等導入支援・普及促進センター」を中核機関として「北九州モデル」の普及促進に取り組んでいるが、実地研修や最新機器の運用体験ができず、その魅力を十分に情報発信できていない現状がある。

そこで、先進的介護「北九州モデル」を具現化したモデル施設として、

- (1) テクノロジーの積極活用による高効率な施設運営
- (2) 実地研修もできる教育プログラム提供による地域介護人材の育成
- (3) メーカーと連携しての介護ロボットの開発・改良
- (4) 視察対応を含め、データに基づく科学的な業務改善に関する情報発信を実現する介護施設を整備し、先進的介護の情報発信力を強化するとともに、地域の介護人材の育成や、次世代ケアの魅力を発信することで、介護人材の確保・定着につなげていきたい。

モデル施設整備は、令和6年度、特定施設入居者生活介護として公募を実施し、令和8年度当初からの運営開始を予定している。

- 【今後の予定】
- ・ R6年度：公募実施
  - ・ R8年度：施設運営を開始